

# 令和6年度 中部森林・林業交流発表会 全課題一覧(概要付き)

## 1. 森林技術部門 13課題(国有林8課題・民有林5課題)

区分	発表課題	署名・機関名・学校名等	発表者		概要
			役職・学年	氏名	
国有林	携帯電話不感地帯での治山工事における通信環境の導入について(追加報告)	富山森林管理署	治山技術官	城内 優希	山間部奥地の通信エリア圏外における治山工事の施工管理にあたっては、いくつかの課題があり解消に向け取り組んできた。今回、試行していたLTE回線に替えて低軌道衛星通信(スターリンク)を導入したことによる改善成果を発表する。
			治山技術官	前田 達樹	
国有林	機械による掻きおこし箇所天然更新及び下刈省力化への効果の検証	中信森林管理署	主事	田中 晶也	主伐面積の増加に伴い低コスト再造林技術の開発・導入は喫緊の課題となっています。中信署では令和4年度に設定した機械による掻きおこし試験地について、天然更新と下刈省力化への効果の検証結果について報告します。
			横山木材(有)総務部長	小口 真澄	
国有林	浅間山火山対策事業の中間報告～融雪型火山泥流への備え～	東信森林管理署	治山技術官	川本 晟司	東信署管内に位置する浅間山は日本有数の活火山であり、火山災害の一つである融雪型火山泥流により、大規模な被害をもたらす可能性がある。そのため、現在中部局初の火山泥流対策ダムによる治山事業を実施しており、これについて発表する。
			主事	岩本 昂祐	
国有林	治山事業におけるICT技術の活用について ～ICT技術の活用で広がる世界～	南信森林管理署	主任治山技術官	奥原 英	治山工事でICT技術を活用することにより施工性の向上や省力化が実現するだけでなく、得られたデータを駆使することで3Dでの台帳管理や事業説明が可能となり、新たな分野で活用が広がることについて発表する。
			藤森土木建設株式会社	高山 徳也	
国有林	ドローンを用いた植栽木と競合植生の状態の把握について ～下刈省略区域の設定に向けたヒノキ造林地における取組～	岐阜森林管理署	地域技術官	齋 つかさ	下刈の省略を検討する造林事業地において、ドローンを用いてオルソ画像等のデータを作成し、QGISにより植栽木と周辺植生の競合状態を判定した。また、その結果から下刈省略区域の設定への活用について可能性を検討した。
			地域技術官	西田 圭佑	
国有林	下刈の省略による苗木への影響について ～検証期間の中間報告～	東濃森林管理署	造林対策官	赤嶺 江里奈	下刈省略試験として、上村恵那国有林内の同一小班内に、毎年下刈り、隔年下刈り、無下刈りの試験区域を設定した。R3年からR6年の調査データを用いて、それぞれの成長量の比較から下刈りの省略が苗木に与える影響を考察する。
			森林整備官	井出 萌	
国有林	湿性ポドゾル地帯の更新法 ～三浦・助六実験林のあゆみ～	木曽森林ふれあい推進センター 森林整備部 技術普及課 木曽森林管理署	主事	前田 賢吾	温帯性針葉樹林における伐採跡地の復元技術の確立を図るために、長野県木曽郡王滝村に設定した三浦実験林と助六実験林から得られたデータを基に、木曽ひのきの天然更新に関する成果と今後の課題について報告する。
			技術開発主任官	南坂 博和	
			森林技術専門官	高橋 良二	
国有林	UAVなどから得られるDEMデータ等を用いた林分調査方法の検討	森林技術・支援センター	森林技術普及専門官	田口 康宏	UAVから得られる3次元データやDEMを代表とする標高に関するラスターデータを用いた活用方法の検討。また、UAV及び森林三次元計測システムを用いた林分調査方法の検討について発表。
			主事	大武 史弥	
民有林	主伐地における簡易架線集材の見学会開催報告～スイングヤーダによる作業システムの普及と事業者連携を目指して～	長野県佐久地域振興局林務課	主査	篠原 隼	佐久地域は、積極的な主伐・再造林が進められていますが、森林作業道開設に適さない急斜面での集材作業が課題となっています。
		南佐久中部森林組合	技師	井出 大二郎	
民有林	大苗植栽による下刈り省力化の検討	長野県林業総合センター	主任研究員	大矢 信次郎	大曲国有林をはじめとした大苗植栽の現場で、どの程度下刈りが省力化できたか、また植栽木の成長への影響はどうだったのか評価する。
民有林	センダンの種苗生産及び育林技術に関する研究	愛知県森林・林業技術センター	主任	長谷川 規隆	愛知県では、早生樹のセンダンについて、新たな造林樹種として導入を目指しています。そこで、当センターではセンダンの育苗と育林の技術開発に取り組みました。結果、苗畑と同等の大きさのコンテナ苗生産を実現するとともに、センダンの種子採取から育苗までのスケジュールを確立することができました。また、本県由来の種子から育てた苗木を県内各地の試験地に植栽することにより、本県においてセンダン育林に適した条件を明らかにすることができました。
民有林	再造林地における下刈りのための植生分類	岐阜県森林研究所	研究員	宇敷 京介	岐阜県内の再造林初期に出現する植生を調査をして、生活型ごとに分類した。その結果、分類ごとに適切な下刈りスケジュールは異なると考えられた。
			主任専門研究員	渡邊 仁志	
民有林	超緩効性肥料で育成したヒノキ実生コンテナ苗による低コスト再造林技術の提案	岐阜県森林研究所	主任専門研究員	渡邊 仁志	育苗時の元肥の違いがヒノキ実生コンテナ苗の成長に及ぼす影響を評価するとともに、苗木の生理生態にあわせた植栽時期、下刈りスケジュールを配慮することによる低コスト再造林技術を提案する。
			森林技術・支援センター	田口 康宏	

## 令和6年度 中部森林・林業交流発表会 全課題一覧(概要付き)

### 2. 森林ふれあい・地域連携部門 6課題(国有林4課題・学生2課題)

区分	発表課題	署名・機関名・学校名等	発表者		内容要約
			役職・学年	氏名	
国有林	マンパワーによる戸隠森林植物園の保全整備について	北信森林管理署	主事	松原 千夏	県内外のボランティアやオフィシャルサポーターの支援、協力のもと、令和4年度から同植物園に携わる関係機関等により行っている、マンパワーを最大限に生かした保全整備活動の経緯や取組内容、将来の展望について発表。
			主事	松本 凧彩	
			主任森林整備官	林 勇一	
国有林	国有林のフィールド活用を通じた地域貢献 ～20年以上にわたるクロスカントリー大会の開催～	木曽森林管理署	森林官補	鈴木 香乃	王滝村では国有林林道を使用するクロスカントリー競技の大会が開催されており、1つの大会で1000名を超える競技者・スタッフが集まります。国有林におけるこのような大規模な大会は他になく、本大会の取組について紹介するとともに、取組を通じた地域への貢献について報告します。
王滝村役場 企画・観光推進室 室長補佐兼商工観光係長	溝口 孝博				
国有林	飛騨地域における広葉樹活用の推進に向けた国有林材供給の可能性	飛騨森林管理署	森林官補	大庭 由加里	飛騨市では地域の豊富な広葉樹資源を持続的に活用していくため、「飛騨市広葉樹のまちづくり」を実施している。国有林に対しても広葉樹材の供給が期待されているため、植栽地由来の針広混交林を対象に広葉樹供給について検討した。
飛騨市役所 林業振興課 林務係長	増田 千恵				
国有林	治山工事現場見学会を通じた地元住民への理解を深める取り組み	愛知森林管理事務所	治山技術官	磯部 陽平	降雨量の増加や局地化により、治山事業は災害時の復旧や森林機能の維持増進など、地域の防災・減災に重要な役割を果たしています。しかし、住民の方々の治山事業への認知度は低いのが現状である。このため、住民の方々に治山事業の重要性を理解していただくために、治山工事現場見学会を開催した。治山事業の役割を理解していただく取り組みの実践と課題について報告する。
総括治山技術官	岡庭 敏夫				
学生 (高校)	クマとの共存を目指して	長野県下高井農林高等学校 地域創造農学科 環境創造コース	3年	深谷 禮輝	高校生が地域をフィールドに、住民や関係者と協力してクマの出没対策に取り組んだ1年間の成果を発表する。緩衝帯整備やクマ鈴ワークショップの実施内容と成果も報告します。
			3年	荒井 鴻希	
			3年	塩崎 一颯	
			3年	長張 瑞樹	
学生 (高校)	木曽青峰里山活用プロジェクト ～ICTを活用した里山情報の継承～	長野県木曽青峰高校 森林環境科	3年	星野 輝	地元の山林所有者の方への取材やICTなどを活用した調査を通じて、木曽地域の里山の現状を把握した。報告会を実施し、地域とともに里山の活用や継承などの今後の里山づくりを考え、新たな担い手に繋ぐ活動を紹介する。
			3年	漆脇 琉葵	

### 3. 森林保全部門 4課題(国有林1課題・学生3課題)

区分	発表課題	署名・機関名・学校名等	発表者		内容要約
			役職・学年	氏名	
国有林	防護柵(ブロックディフェンス)を活用した捕獲方法について	技術普及課 南信森林管理署	主事	中村 育野	皆伐地の搬出作業路をシカが利用していたことから、作業路を遮断せずに防護柵(ブロックディフェンス)を設置し、その周辺のシカの生息状況を調査するとともに作業路を利用するシカの効率的な捕獲方法について検証したので発表する。
			野生鳥獣管理指導官	降旗 真紀子	
			野生鳥獣対策官	千村 知博	
学生 (高校)	地域の森林モデルを目指して ～生産性と環境性を両立した持続可能な森づくり～	岐阜県立飛騨高山高等学校 環境科学科	2年	宮下 真理	本校演習林をモデルに、生産性と環境性を両立した持続可能な森づくりを実現するための森林管理の手法等を明らかにし、その成果を地域へ普及させ、国土の保全と自然との共生に繋げる活動を行いました。
			2年	道下 慎一郎	
学生 (大学)	食害の被害があればシカは獲れるのか ～センサーカメラを用いたわな初心者の捕獲取り組み～	信州大学農学部	3年	佐々木 ヒロ	近年増加しているシカの食害被害軽減ため、捕獲による対策が進められている。しかし、罠初心者にとっては知識・経験の不足から捕獲に至ることが難しい。そのため、センサーカメラを用いてシカが多いところに罠を仕掛けて捕獲率向上を図った。その結果について紹介する。
学生 (大学院)	南アルプス大規模雪崩跡地の初期森林回復にキイチゴ類繁茂が及ぼす影響	信州大学大学院 総合理工学研究科	大学院修士2年	永田 紘夢	2017年2月に南アルプス北部で発生した大規模雪崩によって形成された雪崩跡地において、2022年から2024年までの間に継続して行ってきた森林回復状態の調査結果について報告する。